

みなさん、こんにちは。

私はキムヘインと申します。韓国の建国大学で日本語教育を専門にしています。

本日、私は韓国人の日本語学習者として、また日本語教育者としてみなさんに伝えたい事があります。

まず、みなさんに聞きたい事があります。みなさんの中で日本語を勉強している韓国人はどのようなイメージですか。韓国人は日本語が上手だと思ったことがあるのではないのでしょうか？日本語と韓国語は似ているところが多いです。日本の文化に興味を持って、すぐ日本語を覚える人が結構多いです。そこで、私が言いたいことは一体何か、韓国人は日本語が上手です、で終わりか、そうではありません。

今から私のことを話したいと思います。

私も日本の文化、特に舞台に興味を持って一人で日本語を勉強しました。韓国語と似ているからでしょうか。日本語の実力がすぐ向上して、その頃は、本当に楽しかったです。

私は日本語教育学科に入った時も、日本語に自信を持っていました。自慢していたかもしれません。そこで日本人の先生からあることを指摘されます。「一人で勉強していたからかな…ヘインさんの日本語は中途半端です。」先生によると韓国人の日本語学習者によく現れる悪い癖が全部見えるということでした。発音とイントネーションのことです。日本語の「ツ」は韓国語の文字では表現できない音なので、それをちゃんと認識して音を出すのが難しいです。韓国人だから日本語を簡単に学べましたが、韓国人だからこそこできない部分があったのです。私はその後、落ち込んでしまいました。日本語の勉強を楽しく感じるができなくなって、私の日本語は中途半端よりもむしろ下手になりました。3年以上のスランプの後、私はある高校に1ヶ月間教育実習に行くことになりました。私も中途半端なのにどうやって日本語を教えようか迷いました。しかし、私はそこで何十人の‘ヘインちゃん`に出会えました。昔の私のように日本語でコミュニケーションが出来るということを楽しみながら、笑顔で日本語の勉強している生徒たち。私も初めて日本語で話した瞬間の幸せを思い出せました。私はその一ヶ月、愛しい教え子たちに、そして私自身に、その楽しさを忘れず、間違っても、中途半端でもいいから努力し続けていこうと伝えてあげました。

私はこれから私のように挫折を感じた人の力になれるように日本語教育学についてもっと勉強したいと思っています。

本日、ご来場くださった全ての外国語学習者の皆さん。外国語を勉強する時に母語、環境の影響は、良くも悪くも確かにあるかもしれませんが。しかし、最も大事なことはそれではありません。自慢も、挫折もせずに努力し続けること。その過程自体を楽しむこと。それができる皆さんはもう立派な外国語スピーカーです。

ご清聴ありがとうございました。